

熊本県の人口減少要因を探る

～若者の人口流出について～

研究員 林田 祐子

はじめに

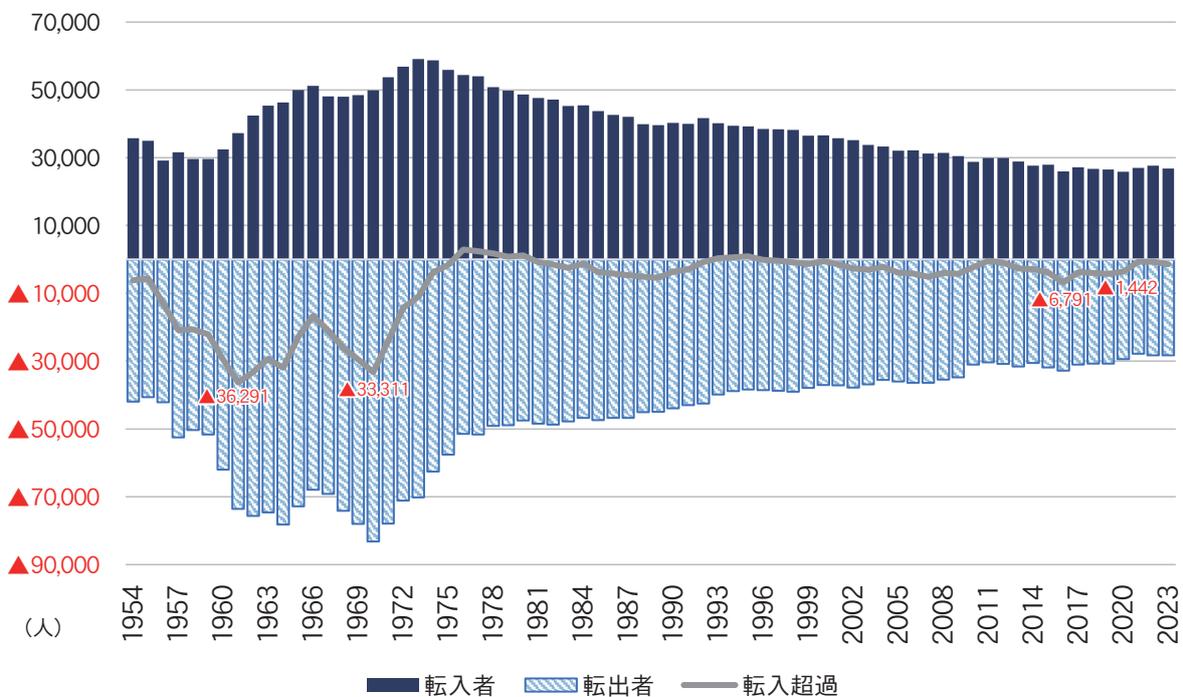
当研究所では、これまで「人口減少問題と地方経済への影響」（前後編）と題し、熊本県の人口について自然増と社会増のそれぞれの観点でレポートを公表している。なお、後編の社会増に関するレポートでは、熊本県の転出数と転入数について男女別に分析を行った。本稿では、転入数と転出数について年齢階級別で分析し、特に県外への人口流出が問題となっている若者世代について現状を整理する。

1 転出超過が続く熊本県（社会増減の推移）

熊本県の日本人移動者の転入超過数（転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナスの場合は転出超過を示す）を見ると、1954年以降では、1976年～1980年と1993年～1995年の8年間を除き、転入超過数がマイナスとなり転出超過が続いている（図表1）。

最近では、熊本地震の影響で転出者数が一時的に増加した2016年以降は、転入者の増加により転入超過数のマイナス幅（転出超過数）は減少傾向にある。

図表1 熊本県内の転入者数、転出者数及び転入超過数の推移（日本人移動者）

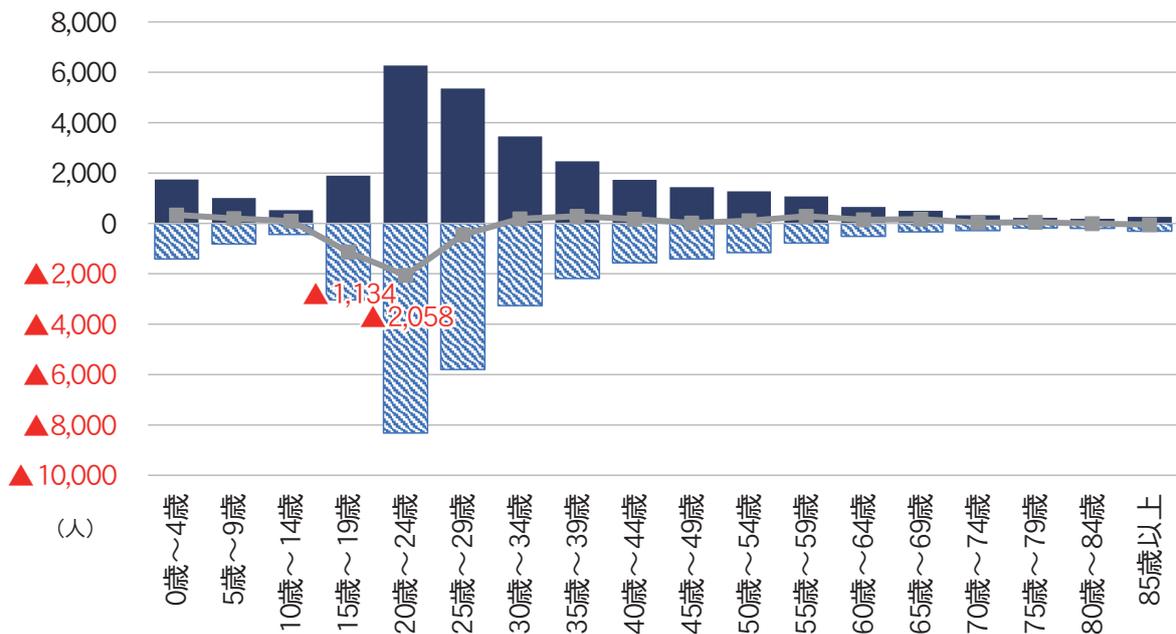


資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」

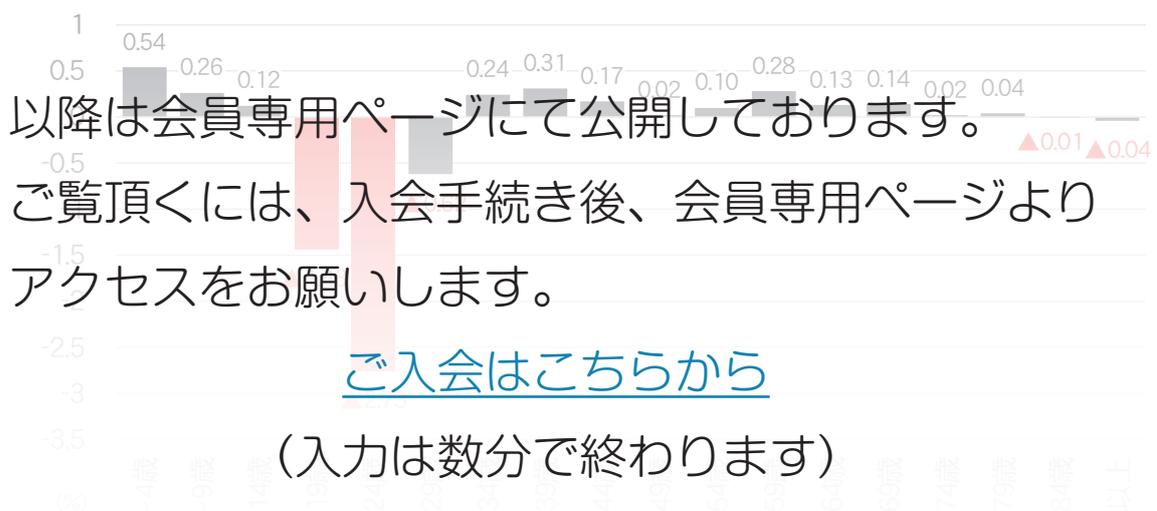
2 熊本県の年齢階級別社会増減

直近の2023年について、年齢階級別に転入超過数を見ると、多くの階級で少ないながらも転入超過となっている（図表2）。しかしながら、「15～19歳」「20～24歳」では転入超過数がマイナスであり、他の年齢階級に比べ大幅な転出超過となっている。年齢階級別人口に対する転入超過数の割合である転入超過率においても、「15～19歳」「20～24歳」においてマイナスの割合が高く、特に「20歳～24歳」では人口のうち約3%が県外へ流出する現状にある（図表3）。

図表2 熊本県の転入者数、転出者数及び転入超過数（年齢階級別，2023年）



図表3 人口に対する転入超過数の割合（転入超過率）（年齢階級別，熊本県，2023年）



以降は会員専用ページにて公開しております。
 ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
 アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)